

〔翻刻〕小幡三郎右衛門日記 万延元年（上）

新堀道生*・秋田古文書同好会

一 解題

本史料は、小幡三郎右衛門（秋田市土崎）が記した万延元年（一八六〇）の日記である。三郎右衛門は、天保十年（一八三九）に久保田本町四丁目（現秋田市大町四丁目の一部）の畠山平八の次男として生まれ、はじめ栄太と名乗り、元治元年（一八六四）頃に土崎の廻船問屋小幡三郎右衛門家に婿入りし、のち三郎右衛門を襲名した。日記は彼の次男助蔵が継いだ吉井家に伝来し、秋田北高等学校に寄贈され、同校から秋田県立博物館に寄贈された。日記は万延元年から大正四年（一九一五）まで書き継がれ、四十四冊が現存している。

ここで栄太の履歴について触れておく。この日記とともに日記の断簡が六束ほど伝わっており、その中に栄太の家系を知りうる記事がある。まず小幡屋三郎右衛門の宗門調の写の中に、「久保田本町四丁目畠山平八子 三十三 栄太」の名に続き、「三郎右衛門子 二十九 女房 おみの」の名が見え、栄太が畠山家出身で、小幡屋の娘と結婚したことが分かる。また別の断簡に、小幡三郎右衛門は本町四丁目畠山平八の次男で、平蔵の弟と記され

ており、栄太が小幡三郎右衛門を襲名したことが分かる。婿入りの時期は、元治元年（一八六四）の日記に「畠山栄太」、同二年の日記に「小幡谷栄太」と署名しているもので、元治元年あるいは二年であろう。生年は、日記とともに寄贈された「諸事御控帳」（明治二十二年）に天保十年十二月十三日生まれと記されている。

日記の呼称は「小幡三郎右衛門日記」とした。日記筆者の名前は畠山栄太、小幡屋栄太、小幡三郎右衛門と変わっていくが、その最終的な氏名を採用した。なお、伝来文書の中に小幡屋、小幡谷という表記も見受けられ、また江戸時代に廻船問屋として小幡屋を名乗ってもいたが、明治以降の戸籍史料や家族間の書状では小幡と記している。

日記の記事から、栄太は美術品や刀剣の売買に携わり、「道具会」などの会合に出席し、十月に横手、院内銀山に出張したときも品物を売買したことが分かるが、記事が簡素で業態の詳細は分からない。記事の中では、竿燈、ねぶりながしの挙行（七月六日）、作柄が良く盆が賑やかだったこと（七月十七日）、アメリカ人殺害の誤伝（十二月十一日）などが注目される。日記に頻出する「小の岡」は、栄

太の姉の婚家、秋田藩士小野岡正之助の家を指す。「中城」と出てくるのは栄太の伯父関新六郎を指す。彼は下中城の梅津小太郎の家来である。

本史料の解読は秋田古文書同好会の田中理榮子、保坂佳子、伊藤茂、鎌田幸男、大門丈士、高橋三雄、柏谷勉、目黒勳、日高輝美、幡宮明貞、伊藤美亜、熊谷清貴、鈴木倫子、青山英子、平谷金吾、竹花明子、山部敏行、翻刻データの入力には柏谷勉、解題・校正を秋田県立博物館新堀道生が担当した。

凡例

- 史料中の用語に適宜注釈を施し、その日の記事の後に掲げた。
- 読解の便のため句読点を加えた。
- 旧字・異体字は通用の字体に改め、変体仮名の「は」「も」は平仮名に、「より」などの合字は平仮名に改めた。
- 誤りと思われる字はそのまま記し、丸括弧内に「ママ」と付記するか、正しいと思われる字を記し、疑問が残るものは「カ」と付記した。
- 欠字は一字あき、平出は改行で示した。

○判読不能の文字は□で、字数不明の場合は「」で示した。

二 翻刻

○付箋・後筆等は鉤括弧で示し、「(付箋)」などと注記した。ルビなどの傍注は該当する語句のあとに鉤括弧で示し、「(傍注)」と注記した。

当湊ト通用ものハ

一、壹朱銀 十六ヲ 一兩

一、貳朱金 八ツヲ 一兩

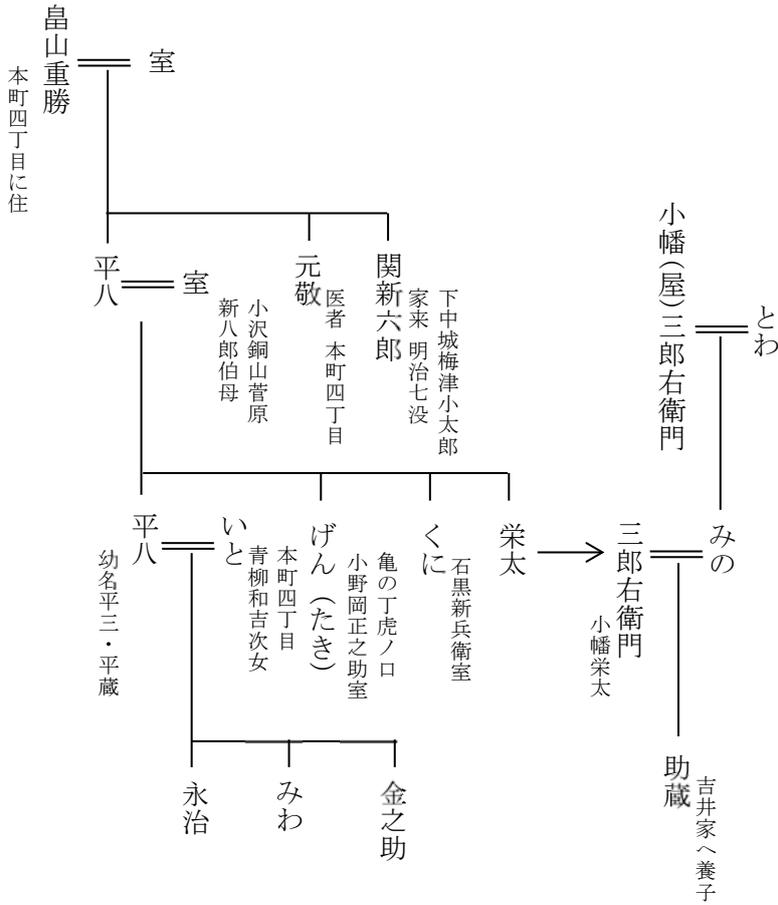
一、二分銀 四ツヲ 一兩

一、二分金 ニツヲ 一兩

外、国札通用

相場とあるハ国札ニ而金壹兩ヲ

小幡・畠山氏略系図



安政改元

閏三月十四日ヨリ

万延元年ト号シ

「当百銭 波銭 寛永銭也」(朱筆)

六月十日、申日。朝曇、後天気。昼時ヨリ又曇。

九ツ半ヨリ雨フル。寺町金毘羅祭祀。仙北

小貫近藤嘉兵衛殿より白餅米壹斗来ル。

十一日、酉日。西風天気間々雨フル。等分風

有。金砂山祭祀参詣いたし。

十二日、戌日。朝曇、下風、後天気克。寺内

古四王山参り、湊こく蔵(虚空蔵)祭祀参

詣いたし、所々見物。

十三日、亥日。朝曇、後雨ニ而西風後天気。

蛭子堂祭祀参詣いたし。夜莫太能。

十四日、子日。西風朝曇、後九ツ時より天気

北風、八ツ時ヨリ又曇ル。戸島町稲荷大明

神祭祀。

十五日、丑日。西風朝曇、後天気。大二神明

宮祭り。武兵衛殿来ル。

*大二大町二丁目

十六日、寅日。今朝雨ふる、後晴、四ツ時ヨ

リ又ふる。

十七日、卯日。今朝雨。申方ヨリ風吹出シ。

阿仁銀山秋山武兵衛殿。三日ニ相成五ツ前

ニ雷大雨、後天気不成。白米壹俵代百廿六

貫文。武兵衛殿帰宅し。凡二分(後筆)

十八日、辰日。朝曇後少々雨ふる。後雨晴。

風山瀬。四ツ時雷ナル。後天気。七ツ時雨
ふる。夜大雨、電光ル。

「両替或ハ金相場とあるハ国札を以」(後筆)
十九日、巳日。朝曇。両替式百四拾九貫文「二
而金壹両」(朱筆)。九ツ時大雨後天気、夕
曇ル。夜莫太能。

廿日、午日。朝曇。昨夜五丁目川反にて湊ノ
女川にて死たる下噺ニ御座候。後下風、天
氣。河崎嘉右衛門様ヨリ千年杉皮代受取人
来り、右訳柄を申候所、左様ならハ親方御
歸り着ニ御聞被下度ト申事にて歸り、後兄
歸り右之事ヲ申候所、とうわくいたし、即
小の岡様へ参り候所、わけもなくよし位訳
ニ御座候よし。石田健市郎殿より百五拾貫
文ニ而金式歩ト式拾五貫文受取。両替式百
四拾九貫五百文ヨリ五十貫文まで。物なし。
八ツ時ヨリ又曇、七ツ時より雨風後晴。

「両相場ニ而金壹両」(朱筆)

廿一日、未日。朝雨山瀬風曇。ミナト「湊」(傍
注)天照太神宮祭り。曇れとも雨ふらす。
見物ニ参り。山拾巻出る。七月せつ。
*七月節ニ二十四節氣の一つ。以下注記しないが該
日記は「八月節」「八月中」のごとく二十四節氣を
記している。

廿二日、申日。朝曇。湊ニ而白米壹升三貫
九百文宛。沢山なれハ不売、式三升ヨリ不
売。風申方ヨリ吹出シ。十六日ヨリ同風ナ
リ。後天気。誓願寺へ参詣。

「十六日ヨリ同風故、米屋方二三升位よりう
らぬと有り」(付箋)

「○白米壹升、壹錢五厘六毛ニ当る」(後筆)
廿三日、酉日。今朝少々雨ふる。風前ニ同シ。
後晴後天気。新寺町本妙寺清正公御祭礼参
詣。

廿四日、戌日。朝天気、西風。牛島米壹升四
貫文、三斗百廿貫文。金相場式百五拾貫文
位、国通用札ヲ以て。
廿五日、亥日。朝霧「きり」(傍注)。金相場
式百四拾八貫五百文位。朝出シ風、後西風、
天氣。
廿六日、子日。朝曇、後天気。染屋「ソメヤ」
(傍注)三治女房、八沢木ヨリ稲の穂持参。
廿七日、丑日。朝曇、九ツ時ヨリ天氣、西風。
不動明王祭り。
六月

廿八日、寅日。朝曇、後天気。昼時ヨリ雨ふ
ル。七ツ時兄稲見ニ参り候所、鷹「かん」
(傍注)の様成者、羽をそろへ飛参りト申
事にて御座候ニ而、左候得ハ稲之実もはら
さる哉、母なと、噺いたし。染屋三治へ参
り候所、鶴ニ候哉申事ニ候。白米壹升四貫
百文、三斗百廿三貫文。

廿九日、卯日。朝曇、後莫太能天氣。横町古
亀殿へ白米壹俵百三拾六貫文「三斗ニ付五
十四錢六厘」(傍注)ニ参り、諸色高直。餅
米壹俵百四十壹貫文。両替式百四拾九貫文。

大二村田吉郎右衛門ニ而、住吉大明神祭り。
晦日、辰日。西風、天氣。

小ノ月
七月一日、巳日。朝少々曇、後天気。下拙朝
市へ参り諸色直段聞及候所、りんき拾式文、
梨子小さき所五六文、きうり七八文、小さ
き大根拾式文、なつと九文。右直段後ニ少々
下直ニ相成。菅糸壹両ニ付上糸百二十匁、
又中糸百五拾目以下。仙北木綿形六拾貫文
以下。足利縞百八拾貫文以下。正錢御上仰
ニ後三文半なれ共、三文通用。

「此時国札百文札ハ正錢ニ而三文ニ当ル」(後
筆)
(付箋)
「上菅糸 壹両ニ 百二十目
中同 〃 百五十目
横手形附 六拾貫文、此金廿四匁
下野国足利縞 一反百八十貫文
此金七拾式匁
「此当時足利結城縞上等トス」(後筆)
*りんき(林禽) || りんご。
*形附 || 型染め。

七月
二日、午日。天氣嵐。
三日、未日。天氣。両替式百四十九貫文。白
米壹俵三斗入百廿九貫文。「此金五十一匁六
分」(後筆)湊浜見物ニ参り。

四日、申日。朝曇、嵐。我伯父関新左衛門様
「下中城梅津小太郎家来となる」(後筆)仙
北行。

五日、酉日。天気。

六日、戌日。天気。白米壺升四貫文。九ツ時
かんだうふりたりと諸人の嘸也。今夕ねふ
り流シ廿五本出。大一「大町一丁目」(後
筆)佐々木家うつりわたまし。酒式升進物。
「佐々木良助ノ子 良吉」(後筆)

七日、亥日。天気。処暑、七月中。

八日、子日。天気。金相場二百三拾貫文。後
四五貫文余り不同にて買入無之。小の岡様
へ金壺兩壺歩貸。くら二八本買入、壺本五
文宛。仙北稲穂出揃候よし。地廻りも太躰
出揃ひ、上野辺ハ少々負ニ御座候。

九日、丑日。天気。九ツ時青天、間々黒雲出、
少々雨ふる。出風少々ちよく候得共天気。
三拾三番夜礼、岩吉ト兩人参り。
「三十三番巡り」(後筆)

七月

十日、寅日。朝天気。金相場式百三拾四貫文
以下。此間兩替莫太不同ニ御座候。

十一日、卯日。天気。出シ風はけしく。

十二日、辰日。今朝雲赤く、後風、後又九ツ
時ヨリ出シ風はけしく。

十三日、巳日。少々風有。牛島白米百廿貫文。

六月下旬ヨリ

御上ヨリ町々下ノ者へ、白米ニ而三貫五百

文、玄米三貫文宛ニ而被下置候。

「牛島白米壺升四貫文、此永銀壺匁六分六厘
六ニ当る。佐竹様より窮民へ白米壺升三貫
五百文と有。此永銀壺匁四分五厘八、又玄
米三貫文と有り。此永銀壺匁式分五厘ニ当
る。此時国札壺兩式百四拾貫文と見、明治
三十年八月白米壺升拾三錢也。引合見給ひ」
(後筆)

十四日、午日。今朝雲赤く、後少々風。金相
場式百四十貫文以下。出シ風。

十五日、未日。天気。二百十日。

十六日、申日。天気。天徳寺様見物帰り、八
丁親方にて「柳田長八方ニテ」(傍注)馳
走相成、泉川にてあそひ帰宅シ。一條院様・
宝鏡院様見物。

十七日、酉日。天気。米沢町重藏殿の法事へ
母あんひん廿五預「二十五の預り」(傍注)
持参ニて参候。莫太あつく。乳母ちや御長

老様より塩わらび来り。此間御上ヨリ作合
能故、盆にきやかに可致ト之被仰下御座候。

西風。

「乳母ちやとハ四丁目の本屋の二女」(後筆)

* 一條院 一乗院か。秋田市川元松丘町、真言宗智

山派。

* 宝鏡院 秋田県秋田市千秋北の丸にあった真言宗
寺院。廃絶。

十八日、戌日。雨ニ而出シ風。五ツ半頃ヨリ

風はけしく、後風止、天気。夜大雨電ル。

十九日、亥日。朝曇西風、後天気。夜馬口勞

町屋藏、東海道鈴ヶ森之段、川口忠臣藏八
段目、一昨日川反一つ目ニも「川反一丁目
ニも」(傍注)有。大にきやかニ御座候。

廿日、子日。今朝天気、西風。新川ニ而水馬、
笹森ニ而陣備へ。夜馬口勞町やくら義経弁
慶「見物」(傍注)人々数多不知数。

* 日吉八幡神社祭礼時、かつては町に櫓を立て人形
等を用いた飾り物を出した。

廿一日、丑日。朝曇出シ風、後天気。檀山明
殿相撲見物。白米壺升三貫六七百文「一錢
五厘五毛ニアタル」(傍注)、少々直段下り、
稲も太躰納ル。相場式百三拾九貫文。物ナ
シ。

廿二日、寅日。今朝雲赤く、夫より曇、夫よ
り少々雨ふる。則晴ル。後雨風。白露八月
節。

七月廿三日、卯日。今朝西風。天気。烏沼龍
神宮祭り。岩吉兩人「染屋の岩吉と兩人」(傍
注)参り、廿三夜拝シ。

廿四日、辰日。時齋。朝曇。寺参金照寺山へ
至り、帰りニ七ツ時地震。雨ふらすして一
日曇ル。夕雲赤く。

* 時齋 死者の命日におこなう行事か。持齋とも書
く。じさい。以下十一月二十四日、十二月二十四
日条に時齋の記事がある。

廿五日、巳日。今朝曇、後天気。今年作莫太
能故、御国人々心能、盆中ハ諸家ヨリおと

り出、在ニ至迄太鼓廿五など売候家も有之候よし。

「豊作之為踊アリ。下町ニ而太鼓の二十五も在方へ売りたる」と(付箋)

仙北古米沢山有候得共、水不足ニ而久保田へ下ケ兼候よし。諸色角(格)別下値ニも不相成、あんころ餅正錢三拾文ニ付九ツ、うり一ツ十五文より廿文以下位、しんこ貫文ニ付廿程位、しほ壺升壺貫四百文、諸白壺升七貫三百文「三錢〇五毛」(傍注)、並酒ハ六貫弍百文「二錢六厘」(傍注)。湊ハ於昨夜新地おとり、今日ハ永覚町にてやくら、百兩斗りツ、も掛り候よし。追盆一日迄のよし。昼時西風。東屋親方ト南部親方兩人参り、明日村山へ「川反五丁目村山吉兵衛方へ」(傍注)暇取参所。
* 諸白〓麴米と蒸米の両方に白米を用いる上等の清酒。

七月廿六日、午日。天気。東屋へ参り川反へ御出被下度よし申候所、今日ハ余りをそき故、明朝旦那へ相談ニ而村山へ参候よし。廿七日、未日。今朝雲赤く、出シ風少々有、曇昼頃雨。兄「平蔵」(傍注)病氣ニ而、川反の事も全快迄差扣申候。
廿八日、申日。朝雨。古四王山へ兄病氣ニ付七日参り初日。下風当ル。御前様御出、於江戸御屋敷。其為侍町人至迄大広間へ麻上下着用、御喜御出ニ候よし。申年申月申日

申刻灸ヲ立。昼七ツ時。

当十二日青山下野守様ヨリ御縁組、御前様御名勝姫様ト申、御紋所錢之御紋也。

* 丹波篠山藩主青山忠良の娘が佐竹義堯に嫁いたがすぐ離縁となった。「御紋所錢」とは、同家の家紋が錢をかたどった青山錢だったことによる。

廿九日、酉日。天気。油殿(田)坂ヨリ千五百足、八橋ヨリ繩手迄七百足、繩手ヨリ下町迄六百足、下町二百五十足、鉄炮町七百五十足、鉄炮町ヨリ家迄千三百五十足、惣メ五千五百拾足。道筋三町目小路ヨリ田中町、二丁目はしヨリ寺町。四ツ半頃雨、後天氣。七ツ頃風ちよく。夜電ル雷。
小ノ月

八月一日、戌日。今朝曇、後天氣。金相場式百四拾壺貫五百文以下。昨日向ひ三長流横町亀太郎宿ニ而、兄病氣故下拙参り勘定いたし候所、壺人前四貫文斗ツ、当ル。元八百貫文、売高九百五十三貫五百文、金壺歩ト預式拾貫文持参。今年之ひらへ米出「ヒラコメ出ル」(傍注)。四ツ時雨ふる。則晴ル。姉ちや松崎之御医者様へ参り。兄病氣故。川忠・五郎兵衛兩人、大二扇屋道具見ルニ参り。松崎旦那参り、薬三服代五貫文。
□喜へ。夜電ル。

二日、亥日。曇、西風、雲切後出シ風。松崎へ参ル。薬三服、洗薬壺服持参。
三日、子日。朝曇、間々雨ふる。新屋敷上神

谷江東屋の中身持参いたし候得共、小旦那留主ニ御座間、大旦那へ願上、十日迄出来ニ申候。

四日、丑日。朝曇、間々雨ふる。古四王山参り。五郎兵衛・川忠・下拙三人、扇や道具八拾弍両にて商ひ出来、夫より喜助判政、石のや六人、丸兼へ七貫文膳喰に参り。茶町木田様より薬式服、引薬壺服持参。八ツ時より雨。

* 七貫文膳：九月二三日条に十貫文膳の語がみえる。
* 引薬〓塗り薬。

五日、寅日。古四王山七日参り、当日切。今朝曇、雨ふり。

六日、卯日。五郎兵衛宿一人前金五兩出シ。今朝天氣。兄病氣付、出銭出シはつに候得とも、下拙諸品直段も不知故、出銭不出。ひかん初日。

七日、辰日。今朝少々出シ風、後はけ敷。社日。曇。大三敦賀や宿にて帳面附ニ参り。後日三拾貫文引受。

八日、巳日。今朝曇、五ツ時雨。古四王参り。かゝ三「かゝ屋三治」(傍注)・赤巳「赤津巳之松」(傍注)兩人古四王山参り。ミナト金毘羅山参り。兄はれもの暮少々前ニやふれ、うみ沢山出。夫より茶町木田様へ参所、三町目小路にて右兩人ニ行合、嘶いたし候所、兩人大喜ひ。神の御りやく相叶、まつ々々有難仕合。木田様へ右之訳申所、口

薬沓持参。本や乳母ちやより有難御守ゑりニ納め、皆々神仏の御ほべん、皆家内始め大喜ひ。金相場式百三拾七貫文。

九日、午日。今朝曇。ひかんな中日。西風後天氣。木田様より薬式服。新上白米一升四貫式百文出始め。染屋三治様より此間兄病中ヨリ莫太御厚恩ニ預ル。玉子焼、味噌積(漬)、かれ二ツ、新米御まゝ。今朝ハなりもの五郎兵衛殿より鮎五ツ。秋分八月中。

十日、未日。天氣。新屋敷上神谷へ参り候所、東屋之脇差身出来、代拾三貫文之所、拾七貫文受候。三貫文もふけ。坊守町田仲様より矢籠、使かちの者持参いたし候。四ツ少々前ニ御座候。兩人寺参り。

十一日、申日。天氣、少々寒。諸品直段間及候所、上半紙沓状沓貫四、五百文、中浅糸拾三匁位、かちふし拾匁二付代沓貫四百文、中半紙沓貫式百文、金相場式百三十六貫文。丁内小泉屋治助殿小間物持参。下在江参り、九百五十文半紙三状求め、掌中録帳面沓冊拵へ。母・おみわ兩人御寺へ参り。兄義病氣少々心能。

十二日、酉日。今朝東風寒、天氣。ひかんな日切。金相場式百三拾五貫文。白米沓升三貫六百文位「一錢五厘三毛」(傍注)。餅米四貫文「一錢七厘」(傍注)。夜月明。十三日、戌日。朝嵐。染屋三治様、中城伯父へ参り候所、只今当番故、十五六之頃迄御

控ニ被致候よし。岩吉・下拙・栄治新川原へ参り。九ツ時曇、後天氣、又七ツ時曇、東風。

*中城 下中城の梅津小太郎の家来となつていた関新左衛門のこと。

八月十四日、亥日。昨日那須屋佐七郎殿ヨリ重免利加錢式文買入、代式拾貫文。正錢直シ六百文。大サ鯨沓寸八分五厘。七ツ星龜ニ蛇、釦「けん」(傍注)模様。裏ニ文字百式三字ト(図1)如此。地唐金似たり。重サ拾八匁。又大サ鯨一寸。人形有、鼻高く髪ちゝれ、前ニ香炉有。廻りニ文字、録(縁)ニ(図2)如此。後ニ(図3)録(縁)ニ文字。中ノ模様二面之鳥ことし。重サ六匁九分。地唐金似たれ共、少々赤めなり。夜ヨリ雨。当日祭ニ御座候得共止。金之助誕生日故、小豆飯配ル。小豆沓升三貫九百文。金相場式百三拾四貫五百文。後式百三拾三貫文。四ツ時ヨリ天氣。八ツ頃大雨。則時練子「ねりご」(傍注)二三人相見へ。西風。小牝木羽「ケラコハ」(傍注)千枚拾六貫八百文「此金七匁二分」(傍注)。駄賃沓貫四百文。長木羽千枚駄賃共四拾五貫五百文「此金廿一匁九分五厘」(傍注)。川口金吾殿ヨリ参り候直段ニ御座候。

*誕生日：江戸時代の庶民の家では誕生日を祝つて小豆飯を食べ、産土神に詣でるなどの例が確認され、特に子どもの誕生日を祝うことが多かった(鶴

澤由美「近世における誕生日」。
*小牝木羽 当日記では小牝(こけら)、木羽(こば)は同義とみられ、板を薄く削いだ屋根材。



(図1) (図2) (図3)

十五日、子日。朝曇、西風、後天氣、間々雨ふる。茶町三丁ヨリ山拾式、内式ツおとり山。来客ハ小の岡様姉さん東や女郎衆。大口之めい月。夜明山王八幡祭り首尾能。神官茶町西村福藏、馬口旁町長谷川吉太郎。十六日、丑日。天氣。蔵屋根吹替。下風、後上風。

十七日、寅日。天氣。五丁目稲荷大明神祭り。十八日、卯日。朝嵐、天氣。越正・下拙・亥之松三人芝居へ参り。義経千本桜。昼頃ヨリ曇。七ツ頃ヨリ少々雨ふる。少々風。夜岡田屋惣兵衛殿ヨリ天民行屏風沓艘(双)来ル。直段太躰四五百貫文位へのよし。母寺参り。あめりか錢、奈須屋佐七郎へ「」十九日、辰日。雨朝。大工町弁吉へ参り、洞昌之屏風何ニ候哉ト申候所、昨日御客より拾兩附くれ候得共、商ひニ成兼申候よし。私方より佐々木へ御届申上候。横町喜代松より狩の尚信掛物持参。仁三郎掛物口錢拾

貫文持参。三治殿中城旦那へ参り候所、旦那小の岡様へ参り相談致し、莫太馳走相成申候よし、私宅へ参御嘶申上候所、色々訊ヲ申、何れ明日参り取極可申候。茶町菊町大坂や儀八殿宅ニ而、銀山之者腹切死候よし。昼頃ヨリ雨晴候得共、間々雨ふる。夜共雨ふり。

廿日、巳日。雨。五丁目川反小のかすへからかけ代拾五貫文持参のよし。岩吉・下拙・永治、上の辺江参り。七ツ頃雨晴候得共、間々雨ふる。夕雲赤く。

岩吉、栄太、永治の三人上野へ遊び二行。

*かすへカスベのことか。

*からかけ塩漬。

廿一日、午日。今朝下風、後少々曇、天気。屋根吹替。金相場式百廿七貫ヨリ五百文位。新白米三貫六七百文位「一銭六厘式毛ニ当る」(傍注)。

八月廿二日、未日。朝天気、西風寒く。小の岡様ヨリ新屋浜江参り、中城旦那「関新六郎事」(傍注)着持参ニ而参り候よし。村吉殿へ暇取ニ遣し候所、吉兵衛留主にて、ばへ云置参り候よし。下拙暮頃帰宅。

廿三日、申日。天気。岡田へ掛物持参いたし。小の岡へ参り候所、新兵衛殿参り、夕迄ニ御返事可申上よしニ而返り申候。三治殿頼ニ付、手紙付ニ而大一親方へ金子貳両之借用、岩吉殿ヲ以遣シ。昼頃ヨリ曇。手形ニ

而狼煙上ケ。御寺より御法事有之候得共、先日老度参り、当日相成候得共、御使も無之候故母も不参候。下拙湯屋へ参り。夕小の岡ヨリ古白米式斗五升持参。五升貸ニ御座候。金相場式百廿七貫文以下。誓願寺ニ而法然上人六百五十回忌。夜小の岡様より御人来り。村山殿へ参り候所、承知いたし、明朝道具差上可申よし。

廿四日、酉日。今朝天気。昨夜小の岡様へ参り候所、宇佐美ヨリ手紙参り、見候所此間江戸莫太諸品高直、此分ニ候得ハ追々騒動もおこるへき哉トの事とも御座候。染屋三治殿在所江出立のよし。昼前ヨリ曇、西風少々強く、雷鳴。母トおみわ東屋へ留主ニ参り。後又雨風、雷電、霰ふる。八ツ半頃ヨリ天気。母帰宅シ。夜村山殿ヨリ道具来り、慥ニ入手。先方より羽織袴。寒露九月せつ。

廿五日、戌日。朝天気。財布こしらへ代九貫九百文
廿六日、亥日。朝天気。小柘師三人。老坪五貫文「凡二銭三厘」(傍注)ツ、正銭直シ百五拾文。朝出シ風、後西風。七ツ時曇ル。目板壹枚七百五拾文、よど壹枚三貫文「壹銭三厘ニ当る」(傍注)。

*目板板の合わせ目を補強したり隙間を防いだりするため打ち付ける幅の狭い板。
*淀軒先の広小舞(ひろこまい)の上にある厚さ

四センチ程の平たい横木。広小舞は軒先の垂木の先端をおさえる役割をする幅の広い横木。

八月廿七日、子日。朝曇ル、後出し風少々有。大工町弁吉殿へ屏風受ニ参り。大一佐々木へ相渡シ。兄、下拙儀ニ付、酒式升預持参ニ而、小の岡様へ礼ニ参。昼頃より雨ニ而、夜大雨風。

廿八日、丑日。朝雨。昨夜ヨリ間々晴、昼頃大雨風、あられ「霰」(傍注)ふる。相場式百廿六貫文位。山瀬「ヤマセ」(傍注)風。廿九日、寅日。朝天気。山瀬。兄き金貳両借用。筆師へ礼三拾貫文相渡し。当六日切取揃可申よし。百五拾貫文代注文致シ。

大ノ月
九月朔日、卯日。今朝天気。大老佐々木へ手伝ニ参り。相場式百廿六貫文位。昼頃ヨリ雨。「質屋て衣替といふて、五月一日ヨリ三日、九月一日より三日迄」(後筆)

二日、辰日。朝嵐、天気。相場式百廿五貫五百文位。夕染屋三治殿帰宅シ。乳母ちやより土産来り。
九月三日、巳日。朝嵐、天気。衣替ニ而佐々木へ手伝。金相場式百廿五貫文位。「国札式百廿五貫文ヲ以金壹両トス」(後筆)

四日、午日。朝曇、後雨ふる。
五日、未日。朝曇。張ものいたし。後天気、後又曇ル。間々少々宛雨ふる。柳長へ梶巻人前持参、式拾五貫文受取。七ツ頃五郎兵衛

衛宿ニて兄へ金老歩貸。暮頃雷雨。

六日、申日。夜ヨリ雨風、朝晴候得共風不晴。

矢橋ヨリ筆持参ニ而ホマヨ位「百八十五貫文」(傍注)

*ホマヨ不詳。百八十五を意味する符丁か。

七日、酉日。朝天気。五ツ少々前、岩吉と兩人

人出立、茶屋ニて扱(吸)物老前「膳」(傍注)

三百文。九ツ半頃飯塚へ着。七ツ頃曇ル。

大一ヨリ式百貫文拝借。

八日、戌日。朝雨。浜井川見物。夕餅喰。飯塚村ニ滞在し。

九日、亥日。朝天気。飯塚村出立。四ツ半頃

鹿渡御寺着。夕あられふル。風少々有。「松庵寺と云フ」(後筆)

九月十日、子日。朝曇。山江きのご取ニ参ル。

松庵寺滞在ニ而。霜降九月中。

十一日、丑日。朝天気。寺出立。新屋敷ヨリ

雨ニ当ル。九ツ頃能代鍋与へ着シ。

十二日、寅日。能代町筆売ニ参リ。鍋与へ四

貫文代。菓子出シ。相場式百十貫文。ノシ

ロ。

十三日、卯日。朝曇、後天気。鍋与ヨリ五ツ

半頃出立。八ツ頃御寺へ着。

十四日、辰日。天気。御寺ノ山見物。等(当)

分面白く御座候。

*当分最近、差しあたりの意。

十五日、巳日。五ツ半頃御寺出立、一日市へ参り候所、昼頃飯塚ニ而昼喰、暮半頃家へ

着。即雨。

十六日、午日。朝曇、風少々有。預式百貫文

佐々木へ返済。菓子老貫文。式百拾式貫文相場。

十七日、未日。天気間々曇ル。永治兩人笹森

へさけあみ見物。「笹森へ鮭あみ見物ニ」(後筆)

九月十八日、申日。朝雨。大老へ手伝参り候

ト思ひ共、三治・兄「平蔵」(傍注)兩人下在江参り候。五ツ半頃より雨晴。七ツ頃又

雨ふル。兄へ五拾貫文貸。夕ヨリ雷鳴、後電ル。

十九日、酉日。朝曇ル。後天気。相場式百拾

三貫文。「相場式百拾三貫文ニ而通用金老兩ニなる」(後筆)

廿日、戌日。朝霞ふル。沢山。津軽土佐守様

御通行廻文参り候得共、御通行無之。古亀宿ニて大一より五百貫文借用。三百拾貫文

出シ。三拾貫文仁三郎殿ヨリ受取。七ツ頃より風吹。相場式百十三貫三百文。津軽様

湊御宿り。「湊肴町御本陣 山与」(後筆)廿一日、亥日。朝天気。道具会四拾貫文出シ。

今朝泉村利右衛門殿小や焼失シ。夕兄帰宅シ。両場(相場)式百十三貫文以下。三長ヨリ参り候たん筈、忠四郎殿へ壳申候。小の岡より米老斗。

九月廿二日、子日。朝曇ル。高橋文治殿へ鰐

之訳ニて参り候所、老兩日御控被下度、下

拙罷上り、親方江御嘶申上候よし。相場式

百十三貫五百文ニ而老兩。母小の岡へ女無

尽にて手伝ニ参り。夜下拙向へ(迎え)ニ参り、山餅喰。水代式貫文相渡シ。但シ老

振五文宛。

亀町寅ノ口 小野岡正之助

廿三日、丑日。天気。留吉殿仲間入為、戸嶋

町井川へ参り、拾貫文膳、惣人数拾八人。

母寺より東屋へ参り。

廿四日、寅日。今朝雪六七寸ふル。母帰宅。

少々風有。津軽土佐守殿五ツ半頃御通行。惣人数四百人斗ト聞伝へ。小の岡へ手伝。

廿五日、卯日。朝あれる。八ツ半頃より晴

小の岡より米五升持参。立冬十月節。九月廿六日、辰日。朝曇。小野岡より帰宅。

後天気、後又あれ、秋故天気か曇不定。小

の岡ヨリ白米老俵参り。老升代太鉢三貫三四百文哉。兼定短刀拵ル。母・おみわ兩人東屋へ参ル。

廿七日、巳日。朝曇、西風。金相場式百拾六

貫文。大豆老俵百五拾貫文ニ而も、当年ハ大豆不足御座候。そは老俵四拾五貫文。今朝蓆倒打。天気不定。

一、大豆三斗六十九匁
一、蕎麦廿匁〇八分 一(後筆)

廿八日、午日。今朝曇候得共、一日雨ふらず。

佐々木へ手伝。代二拾貫文。股引買入。津軽様南部と境論ニ而、南部浪人三拾六人矢

立峠二而討合候よし。大館様より御加勢を

賜り、津軽人々腰鉄炮持参、院内御番所へ

津軽之手判相渡、手判持参無之者御通シ申

間敷よし申候。湊二而四日御泊り。夕母・

おみわ小の岡へ参り。

*弘前藩と盛岡藩が境界を争い矢立峠で争い大館の

佐竹西家加勢したという記事だが、その事実は

確認できない。相馬大作事件の誤伝か。相馬大作

事件は文政四年(一八二二)に盛岡藩士下斗米秀

之進らが、参勤帰路の弘前藩主を白沢村付近(大

館市)で暗殺しようとした事件。

九月

廿九日、未日。天気。通町より矢立買入。代

貳百七拾文。

三十日、申日。天気。岡田より掛物持参。は

た々々魚十二付壹貫五百文。此金七分。

但ス百匁ヲ以テ一兩トス

小ノ月

十月朔日、酉日。天気。た弓「だ弓」(傍注)

見物。七ツ頃雨ふル。

二日、戌日。雨。私宅出立、刈和野京屋着。

五百文渡シ。四貫文戸嶋より境迄。貳貫文

渡二ヶ所馬共。八ツ頃ヨリ雨風。

三日、亥日。今朝風。京屋殿出立。昼頃鶴貫

着。八貫五百文はたこ。壹貫文神宮寺渡し。

五百文揚(湯)代。鶴貫村進藤吉兵衛方へ

掛物持行。

一、はたこ 三匁九分

一、渡銭 四分六厘 神宮寺ノ

*鶴貫||小貫高畑村。

十月四日、子日。朝雨。三歩式朱不二。三拾

八貫文菊。拾四貫文山水。壹分三朱近衛。

貳両貳分式朱千羽鶴鶴亀。壹歩壹朱唐金

人物。壹両壹歩式朱龍虎。

メ五両貳歩式朱ト五拾貳貫文 掛物代也

鶴貫村進藤吉兵衛様より四ツ頃出立。拾文

揚(湯)代。七ツ頃着。横手湊屋門兵衛殿

宿。八文湯代。四ツ前より雨晴。

「宿泊料二百五十文、此金三匁六分七厘」

(後筆)

五日、丑日。今朝曇。横手より出立。拾五文

渡シ。四ツ頃より青天。拾文横堀渡シ。貳

百五拾文はたこ。拾五文揚(湯)代。百廿文

かすべ。夕頃院内銀山着。拾文大焼「ヲヤ

ギ」(傍注)代。

支配人山口市蔵方へ泊ル

六日、寅日。天気。五ツ半頃銀山出立。廿文

揚(湯)代。拾文わらす(草鞋)。拾文横堀

渡シ。拾文湯沢下渡シ。拾五文吸もの。暮

頃着。門兵衛へ泊。暮半頃より雨。

十月七日、卯日。朝少々曇。五ツ半頃より天

気。横手出立。貳百五拾文はたこ。壹朱浅

糸代。三文揚(湯)代。九文わらす。横手

より宅へ手紙出シ。八ツ頃太田へ着。

榊孫左衛門へ

八日、辰日。天気。孫左衛門方へ十五日迄滞

在。

九日、巳日。天気曇。

十日、午日。朝雨。無病長寿八日灸之右。小

雪十月中。

一日 左九 二日 十一 三日 十六

四日 九 五日 七 六日 十

七日 九 八日 同 同

惣数合百五拾八挺也

小雪十月中

十一日、未日。朝雨風少々有。

一、大豆三斗 糶六斗

一、豆水四斗五升 塩式斗五升五合

但シ大豆壹斗ニ付塩八升五合

餡作ル法。餅米かゆニいたし、麦ノモヤシ

火ニ掛、引臼ニ而粉ニシ、かゆヲ少々さま

し、モヤシニタチカミ計入、又少々休メ、

又ニタチカミ入、又少々ヤシメ、又モヤシ

入、少々ヤシメ、袋入ニいたし、夫ヨリ煎

じへシ。カタシハ猶又煎シへシ。但シ一升

ノ調合ナリ。

*麦ノモヤシ||麦もやしは、麦を発芽させた麦芽で

飴やビールを造るのに用いる。

十二日、申日。朝曇ル。昼頃より雨雪。夕ヨ

リ雪。貳貫文水吞。

十三日、酉日。朝天氣、西風、雪式三寸ふル。
十四日、戌日。朝雪。新谷地旦那来ル。

「新谷地村の医者也。」

女房ハ孫左衛門の娘。」(後筆)

十五日、亥日。朝不雪。

十六日、子。今朝太田「仙北郡角立在の」(傍

注) 出立。後雨風。昼頃新谷地様へ着。

「今よい一ト夜ハ明ないならい

かたりつくして見せましょ

「ふみも使もかよへもやめて

主ト二人テくらしたや

「かわひおまへにほれなき人ハ木仏金仏石仏

「なんほうそ云勤の身ても

ほれて二タツハあるものか

「あかるげいしやハ太鼓をうつか

上る御客ハとらをうち

「こよひおまへハ帯とくからハ

主の妻しやトおもわんせ

「ちきぬくせつしやもふためしんせ

明のからしてなきわたる

「いくらほれても主あるおまへ

おもへきらせてくれたさんせ

「たとへ瀨瀬とかわらハかわれ

わたしやかわれハ身を捨る

「ほれてゐれともうたかひふかへ

あさへ心しやなへわひな

「おなし雲井の月見るならハ

主トならんてなかめたや

「文に真を出といえト

筆にたぬきの毛かまさる

「おまへ真ハきつねかむじな

つへにおまへニたまされる

「思ふふりして上帯すめて

わしをなかせてあすふのか

「義理ハたてたし身ハまゝならぬ

なさけなへ程あるなさけ

「きれる木の字に三ぐりをぶでハ

義理のきの字になるわへな

「淀の川瀨の水にもならハ

日々に下りてあいもせうか

「苦勞しやんすなおかほもやつれ

とかく夫婦に叶ふまへ

「とかく夫婦にかなわぬ時ハ

おそばはなれて下女トなる

「下女トなるよりおまへとわたし

ところはなれてそて見たへ

「ところたちとハさてなじからや

時ノ時節をまつておる

「時節待兼わしやしたならハ

あとのとむらひ頼みまし

「おふてわかれかないものならハ

なみたこぼする事はなへ

「瀨ハ瀨となるかわりはあれと

うつつ月かけかわりやせぬ

「一夜斗りのおなさけなれハ

帯もとくまへかたるまへ

へおもふまへと八身て身のいけん

されとおまへをわすられぬ

へふかひ心てわしやなけれ共

ましにあわせてくださったんせ

へおふ八たまさがかよふ八真

あわすかへしハいくたひも

九文わらす

十七日、丑日。曇ル。風一円無。新谷地出立。

五百文渡シ「神宮寺ノ舟」(傍注)。三百文

大焼「フヤキ」(傍注)。五百文石川渡シ。

五百文同断「戸島ノ上渡シ」(傍注)。三十

文わらす。五百文渡シ「戸島下」(傍注)。

暮半頃帰宅。「四丁目居宅」(後筆)

十八日、寅日。天気。岡田へ金三両相渡シ。

両替一メホメヨ。

十九日、卯日。天気。戎子講仕候。

廿日、辰日。朝天気、後曇。六拾八貫文、印

籠、目形二匁八分、喜松殿より。大工実吉

ヨリ算盤外杯もらへ。夕岡田殿より以書附

ヲ屏風取ニ参り候得共、雨ニ而不遣申。兄

湊へ。喜代松・治兵衛殿伯父ト三人参り候

得共、不商ニ成。

十月

廿一日、巳日。今朝曇ル。岡田とのより天民

屏風以書付ヲ持参故遣シ。相場式百拾貫文。

会横亀ニ有。仙北・地廻り大豆壺両又ハ式

百貫文。高下莫太不当御座候。仙北米六拾

貫文。塩壺升式貫七八百文。四五日間ニ高

直ニ相成。新酒壺升五貫九百文。綿四匁五

分位。

廿二日、午日。天気、出シ風。相場式百拾貫

文。湊へ参り。

廿三日、未日。朝雨。

廿四日、申日。朝曇ル。通気不定。大壺より

道具参り。風アリ。

廿五日、酉日。雪少々ふル。寒風アリ。大雪

十一月節。

廿六日、戌日。朝天気、風なし。小の岡へ参

り、玄米有之候ハ、ト申所、玄米無之、白

米持参可致候よし。旦那噺ニハ此度公儀よ

り関八州・東海道筋至迄、湖「洪」(傍注)

水ニ而米も不足故、酒米等ヲげんじ、日本

国中へ御振廻り候よし。米式俵持参。

廿七日、亥日。天気。相場式百九貫五百文位。

御勢ばい(成敗)清兵衛ト久左衛門兩人「此

兩人草生津ニテ首を切らる。清兵エ出土(で

と)(出戸)ノ人久左エ門大梅津ノ下男」(傍

注)。横町会五郎兵衛殿より廿貫文錢入買入。

「佐竹公ニハ十月廿七日有罪ノ者首ヲ斬り

或ハ放免スル者ノ定日也」(後筆)

*慶応四年日記の後代の書き込み、「或年男鹿の出

土村の清兵衛なる者、松の木に登りて枝を切り居

る所、豈計ん、士ハ其下ヲを通る所、其枝ハ頭上

ニ落たり。何程詫言とも不聞、終ニ上の御沙汰と

成て、十月廿七日於草生津死刑ニ行はる。又其日

に下中城梅津小太郎殿歩行の者、久保田横町酒屋

某方ニて酒を吞て店ニ居る所へ、内藤氏の浪人鎌

吉なる者罷通る所ニ、足を延たる所鎌吉躰き、是

を御沙汰と相成、士へ慮外之趣を以て清兵衛同様

死刑ニ行れたり」とある。

廿八日、子日。夜より雨風なく。

廿九日、丑日。雨ふらす。奈須より金物持参

いたし候得共売不申。

大ノ月

十一月朔日、寅日。天気。今朝屋根ニ雪少々、

即きへ、地ニ雪なし。

二日、卯ノ日。天気。後あめふる。

十一月

三日、辰ノ日。天気雨。

四日、巳日。雨ふ(ママ)。裏町高橋文治殿へ

参り。

五日、午日。朝寒。新酒壺升六貫式百文ニ相

成。米高直ニ相成候哉。相場式百十三貫文。

六日、未日。天気。内町へ商ひニ参り。

七日、申日。朝曇ル。醤油壺升七貫文。

「此金三匁二分五厘」(後筆)

八日、酉日。朝雨。内町へ商ひ参り。表町芳

賀様江百貫文ニ而脇さし売払。相場式百拾

四貫文。

九日、戌日。朝雪。兵助殿「播磨兵助」(傍注)

より根付七ツ持参。

十日、亥日。朝寒く。冬至十一月中。

十一月十一日、子日。雪ふる。

十二日、丑日。五ツ頃より雪ふる。とすめ壺

貫文代。大壺へ金壺両式歩持参。「大壺と

八大町一丁目佐々木良吉事を」(後筆)

十三日、寅日。朝雪。壺尺斗ふり。

十四日、卯日。朝寒。佐々木へ書持参。七拾

貫文銀印籠壳。兵助殿へ根付代四拾貫文相

渡シ。金相場式百拾五貫五百文。母東屋お

きよ泊りニ付参り候。

十五日、辰日。朝雪ふらす。四拾八貫文筆払。

相場式百十五貫文以下。味噌老貫文ニ付八

拾目以下。横亀会、油メニ付、母小の岡へ

参り。「一、味噌老貫文ニ付八十目 此

金四分六五」(後筆)

十六日、巳日。

十七日、午日。金相場式百十四貫五百文位。

十八日、未日。朝雨。古亀会。萌黄ひももら

へ。

十一月十九日、申日。朝たんき。小の岡へ銀

くしこうかけ持参。

廿日、酉日。朝雪。亀町小の岡様より白米五

俵持参り。訳柄有之「米町ニ而六ヶ敷事云

出し候」(傍注)、下拙米町格年へ参り、夜

九ツ頃帰宅。古亀会有り。

廿一日、戌日。岡田殿より「茶町岡田より」

(傍注) 凶レ差書ニ付、戸嶋町か、屋殿よ

り天民屏風、片々雁屋へ持参致し。大一ヨ

り通札三百貫文借用。古亀那波流会、五郎

兵衛殿へ大小有之候間見候所、黒糸柄、銅

龍(籠カ)目入、録(縁)頭赤銅七子地へ

ふんと置上、切羽金きせ、鉦銀きせ、中身

無銘、上作物ト見へたり、刀也。小同糸柄、

銅船二人・鳥置上、録(縁)頭鉄へ金ニ而

篋りんとふ置上、切羽鉦同断。大小共鏝無

之、中身上作物ト見へたり。後鐔見候処、

鉄龍大白共。

*置上||意匠を地の上に盛り上げて表す技法。浮き

彫り。おきあげ。

十一月廿二日、亥日。昨日之会「道具会」(傍

注) 今日ニ相成、壺人前五拾貫文斗宛そん

ニ相成候よし。後藤才助殿へ天民屏風持参。

今朝米町、万十郎へ先日米ノ儀ニ付参り候。

間々大ふき。金相場式百拾四貫文より五貫

文以下。

「才助ハ西馬音内村ノ人」(後筆)

廿三日、子日。四ツ頃母東屋へ参り。兄小の

岡様より差図ニ而、預七貫文酒代ト為岩吉

殿ヲ以米町二丁目江遣し候所、格年亭主留

主ニ而、置参り候よし。七つ少し後地震。

廿四日、丑日。今朝時齋。天气。「今日」(傍

注) 大獅子。白米一俵八拾三四貫文。越中

屋より小豆七升持参。壺升ニ付三貫三百文

宛。暮頃下拙も兄も留主之所へ、米町万十

郎殿女房参り。私親方格年より才足ニ而参

り候所、四丁目より今夕返事も参不申、今

寄合いたし居候よし。兄昼頃火繩持参ニ而

小の岡様へ返礼ニ上ル。

一、白米壺俵八拾四貫文 此金三十九匁

一、小豆壺升三貫三百文 一匁五分四厘

十一月廿五日、寅日。小寒。夕七時二分二入。

十二月節。万十郎殿より使者参り候所、即

兄参り。今朝寒大雪。

*七時二分二入||この年の伊勢曆に同じ記述があり、

日の入りの時刻を示す。

廿六日、卯日。今朝定田御屋敷齋藤政六様へ

参り候得共、留主ニ御座候。金相場式百拾

七貫文。後藤才助殿江式両壺歩、屏風代ト

申候所、明日拙者持参可致よし。

廿七日、辰日。今朝雨。金相場式百拾七貫五

百文位。後藤才助殿屏風代金式両壺歩持参、

岡田殿へ参り、屏風壺両三歩も御まけ被下

度候と申候所、宜敷御座候間、明日弁金ニ

相成候様奉願申上候よし。

廿八日、巳日。朝大ふき。岡田殿へ金壺両三

歩持参シ。大一江通札三百五拾貫文持参。

後藤才助殿へ奈良茶わん持参いたし候得共、

才助殿留主ニ御座候。か、岩殿へ壺両式歩

持参いたし候所、三百廿五貫文持参。相場

大躰式百拾六貫四百文位へ。下米二鶴屋殿

同姓殿「下米町二丁目鶴屋の同姓か」(傍注)

一昨日病死ニ付母参り。風アリ。

十一月廿九日、午日。少々風アリ。来月用ひ

ルとす縄作ル。

*とす縄＝歳縄。しめ縄。

三十日、未日。朝大ふき。太田栄吉殿「太田村榊孫左衛門事」(傍注)ト対面し五貫五百文右御買入。

大ノ月

極月朔日、申日。

二日、酉日。日の様へ中身持参。淀川様「本新町」(傍注)へ礼記持参。弁吉殿ヨリ壹朱ト廿貫文持参致シ。相場式百拾九貫五百文。正金ニ而一両。

三日、戌日。天気。寒九。太田村貞吉殿「孫左衛門同姓」(傍注)参り、進物遣し。

*寒九＝寒の入りから九日目。

四日、亥日。今朝等分風アリ。淀川様より九十貫文札記代。五ツ頃ヨリ雨ニ成。すゝはきいたし。夜大風。店へいろり作ル。

十二月五日、子日。朝寒、大ふき風。昨日か、岩へ横手様屏風遣し。金相場式百八貫文。夜風。

六日、丑日。朝寒。

七日、寅日。拙風ニ氣付伏居候。兄「平蔵」(傍注)、栄治兩人古四王参り。四ツ半頃帰宅。母小の岡へ留主参り。黒ぬり百目ニ付拾式貫文位「のり百匁ニ付十二貫文」(傍注)。後□□下直。芳善殿より膳式膳来ル。等分ハ雪も格別無之。夕より風出ル。「黒海苔百匁 五匁五分五厘」(後筆)

八日、卯日。朝大ふき、後晴。肴持参ニ而母

米町万十郎殿へ先日之返札参り。夕頃帰宅シ。黒大豆壺升拾式貫文、直段有之候得共、大豆無之よし。豆腐八百文。

九日、辰日。天気。今日大黒天。三長伯父殿備前長船忠光脇差持参。大根等分之所百本ニ付代廿六貫文以下。

十二月十日、巳日。朝雪。今日ヨリ大寒。小豆店売四貫文。先日川忠殿より三貫三百文ツ、越正、近清、佐藤治右衛門四人壺俵別ル。炭壺俵拾壺貫五百文、又六七貫文以下「六七貫文以上より」(傍注)段々有之候。四ツ頃より大ふき。小の岡様より川忠殿へ参り候得共、留主ニ御座候。浦町高橋源太郎殿より脇さし身持参。石の屋殿より拾四貫六百文之所、拾貫文受取。大工町弁吉へ参り候所、残り後迄ニ持参いたし候よし。十二月中。

十一月一日、午日。五ツ頃少々ふき。五貫文葉礼松崎へ持参。今度於江戸ニ重めりか人三拾七八人、水戸様浪人ニ而打殺され候よし。於公儀ニ右浪人御尋候得共、一人も相見得不申候よし。讃岐高松太守松平讃岐守様、右浪人ニ而打れ候。今度出羽山形城主秋元様ヨリ、公儀江白キ雉ヲ献上之ヨシ。金相場式百拾六貫五百文。餅米八拾三貫文。

*当時外国人襲撃事件が頻発しており、十二月四日にはアメリカ公使ハリスの通訳ヒュースケンが攘夷派の薩摩藩士に襲われ死亡したが、日記の記事

は事実ではない。高松藩主松平頼胤は幕命で水戸藩政を輔佐したが、開国や將軍継嗣問題で徳川斉昭と対立し、井伊直弼を支持したため水戸藩と確執があつたが、水戸浪士に殺害された事実はない。秋元様＝山形藩主秋元家。この年、天童藩で発見された白雉の藩主織田家からの幕府への献上について諸書に記録がある。その誤伝と思われる。山神縁日

十二月十二日「山神縁日」(傍注)、未日。今朝川忠へ参り候所、明日持参可致候よし。弁吉殿へ参り候所、後方□□御出被下度候よし。山神宮。昼時弁吉殿より三拾式貫文持参。壺貫文過分。大一佐々木より洞昌屏風少々持参。小の岡へ参り。

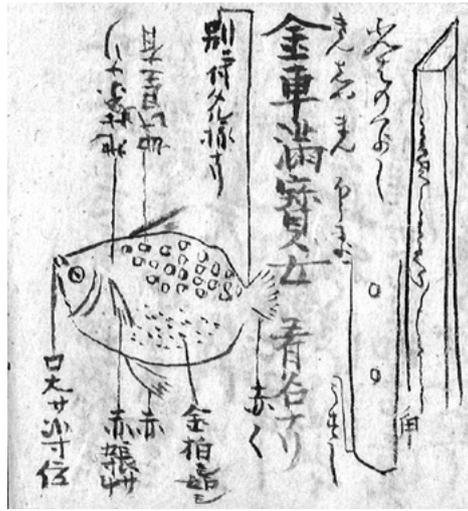
十三日、申日。朝雪。初市。十四日、酉日。朝寒、ふき。御伊勢太神宮御祓来ル。曆出来不申よし。何所ノ旦那様より金式歩預ル。鰐□也。

十五日、戌日。天気。日野様へ御見舞致し候所、拙者も病氣ニ而困入、先日代銭ハ御控被下度候よし。築地田仲新左右衛門様へ、鍬之儀ニ付参り候得とも、旦那留主御座候。横町喜代松殿へ史記之儀ニ付参り候所、喜代松留主。金相場式百拾三貫文。下町鶴郎道中差持参所へ金壺両預ル。夜東や亭主来ル。

十六日、亥日。朝天気。餅米ツギ上り。式斗九升。昼時東やおきよ来ル。

十二月十七日、子日。朝天気。寒。毎度兄ノ病氣直シ旦那参、昼飯振舞イタシ。佐々木江金彦両ト桃燈持参イタシ。昨日東屋市五郎へ金三両貸。上銀一匁拾八貫文以下。疋田様内専助様ヨリ二尺四寸五分刀身持参、切先焼ナシ、古作ナリ。

(図4)



(図中の文字)

「ふんはりつよし」

角 うすし

きんしやまんほうによ

金車満寶女

看名ナリ

赤く

別ニ付タル様ナリ

如此星有

金柏(箔)之如シ

地紫ナリ

赤

赤長サ五寸斗

口大サ式寸位

右肴幅式尺余、長サモ式尺余、ひれハ五寸余、真ニ赤く地紫也。星有。ワヲハさんはの形ニ御座候得共、赤く五六寸モアリ。朝ヨリ夕迄不晴雪。

十八日、丑日。朝雪、風ナシ。金相場式百拾三貫七八百文ヨリ四貫文位。大久保屋店出し。小の岡ヨリ餅米壺斗、大豆一升、歳暮来ル。大久保やヨリおみわへ嶋前当年暮来ル。田仲様より鍵持参。大坂屋へ洞昌屏風片々持参。仙北衆持参之大小身見候所、余りきず出来悪し候。母トおみわ兩人東屋へ参り。

極月十九日、寅日。今朝弁助殿参り候得共留主。川忠殿へ参り候得共同断。小の岡様へ参り切手持参。白大豆壺俵百八十五貫文以下。大豆不足ニ而御上様より御渡し。大豆式百廿貫文。天气。母東屋へ参り夜向へニ参り。大坂屋殿より屏風片々持参。夜東屋へ餅米壺斗持参。

廿日、卯日。朝ヨリ雨。初市。雪。今日ハ雨。青柳殿より鏡餅来ル。川忠殿より百八拾貫八百文持参。相場式百拾六貫五百文。醤油糍壺升四貫文ナリ。今月一日戌上刻、御女子様御誕生被遊。二日出足御飛脚通行。不晴。大一ヨリ塩引壺本、拙へ手拭紋切。廿一日、辰日。朝寒く風少々有。昼頃ヨリ餅造ル。明日之所ニ候得(共)廿二日不淨日

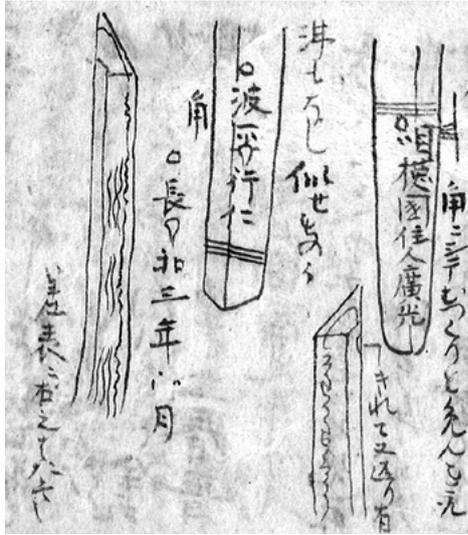
故。八ツ頃より大ふき。鏡餅配り所か、岩青吉・青為・小の岡様・御寺。小豆餅青吉・大久保屋・越中屋殿・五町目紅や。

廿二日、巳日。朝風雪。大工来ル。東屋亭主鳥渡来ル。母東屋へ参り、夜向へニ参り。廿三日、午日。早朝母亀町へ餅造ニ参。風少々有。相場式百拾八貫文以下。東屋より夜着蒲団式通。脇さし二本佐々木へ蔵入。金三両式歩米や五へ遣し。専助様へ刀身持参。屏風持来ル。淀川三兵衛様へ木柄大小持参。後相場式百廿貫文以下。

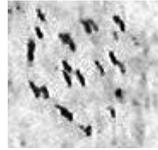
廿四日、未日。夜ヨリ等分之風雪ふらす。早朝亀町より「小野岡より」(傍注)母帰る。時齋。節分。度々大ふき風。小の岡より鏡餅来ル。小の岡へ丸盆富士形ふち黒内朱之拾枚、とんひん壺つ進物。大豆まき今日止、明日可致。大「小」(傍注)豆配り大久保や、か、岩・青為。外醤油壺升。夜五ツ半頃下米二佐々木酒ニ火入り、近所大騒動よし。夕ヨリ風止。

廿五日、申日。今朝東屋「下米町二丁目」(傍注)伯父両家へ見舞。佐々木殿蔵之屋根少々敗「やふ」(傍注)れ、らう下裾通り少々、真ニ酒之匂ひ甚しく。金相場式百廿式貫五百文。立春正月節。佐々木へ洞昌屏風遣し。喜代松殿へ女子病氣ニ付見舞。淀川様へ大小之儀ニ付参り候所、昼時迄ニ此方より申べくよし。日野様へ参り候所、銭之儀八四

(図中の文字)



(図6)



(図5)

五日御控可給よし。昼時雪少々ふる。後暖。くるみ三文二式ツ。夕ヨリ母東屋へ参り。夜喜代松持参大小、皮包糸柄、人物鶴松目貫録(縁)頭金革ニ羽鳥置上七子地、鰐赤銅甲弓矢、裏ニ金さへはへ、地ハ(図5)、切羽金キせ、鉦銀キせ、中身二尺三寸八分、差ウラ波平行仁 長和三年正月、同糸柄牛童子、目貫同断、録(縁)頭同、鰐甲さえはへ弓、裏ニ矢、中身一尺四寸二分、相模国住人広光、切羽鉦同断。(図6)

「角ニシテむつくりとめんヲ取
相模国住人広光
きれて又返り有

沸もなし似せものか

波平行仁

角

長 和三年正月

差表ニ右之はた無之」

*差裏ニ刀を差したとき体に接する面。さしうら。

廿六日、酉日。朝風なく曇。店商ひも等分あり。四ツ半頃寺町小屋焼亡。住居主馬鹿者ニ申ヨシ。夜母むかひニ参り。

廿七日、戌日。朝寒青天。金相場式百廿貫五百文以下。丁内東海林長吉殿葬礼、母悔ニ参り。七ツ頃南ヨリ西之角江のじ立。三長伯父殿へ鉄丸(図7)持参八枚べらば風三貫文、正銭直シ九拾文。

(図7)

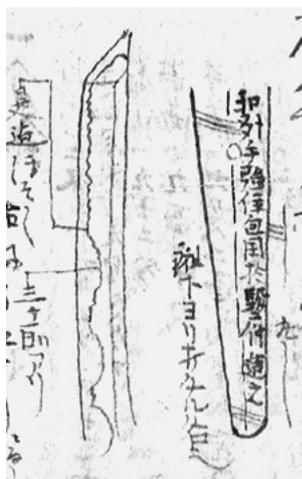


廿八日、亥日。朝(ママ)夜七ツ頃より雨。刻昆布百目ニ付巻貫式三百文。のり昆布三貫文「正金巻刃四分」(傍注)以下。歳繩打。極月廿九日、子日。昨日より雨不晴。魚巻本巻貫五百文、正銭直シ四拾五文。相場式百

十九貫五百文。御寺へ鏡餅遣シ。ことしハ質屋モ片取不致、置替斗に御座候。又其家にもよる。下駄五貫三百文以下。桐玉子一ツ五百文。横町喜代松之女子、昨日夜病死ノ知ラセ来ル。昼頃より雨晴。

大晦日、丑日。今朝少々雪アリ暖気。今朝新川ニ而御米船七艘、此間雨ニ而水沢山出で俄ニやぶれ、右船其行末不知なてにて新川小屋水上へ流れ、川口へ上り候よし。相場式百廿三貫四貫文以下。大一手伝。昼頃より天気。当年粟不作。大豆・胡麻・梨何れ高直。夜神参り。伯父様「佐々木三治」(傍注)より正銭式百文。引受人数左之通。久藏・市しや・彦しや・岩吉・下拙。

(図8)



(図中文字)

丸し

和州手強(搔)住包国於駿府造之

鉦下ヨリ打タル名也

是迄ほそく 三ヶ所アリ

尚々「」極申ニ而も

敷宜程ニ奉存候

和州包国於駿府造之と銘有之、中脇指正真
左文字共可申出来揚、適之御道具也。代
百五拾貫相極可申候。敬白

七月三日 本阿ミ小(十)郎右衛門

小 主水様へ 親俊(花押)

安永三甲午 長サ一尺六寸七分有之

*適||あつぱれ。

*本阿弥十郎右衛門||当時の権威ある鑑定家。

当時通用金銀及国通用札

一、二分金 徳河

目形ニツニテ壹両

一、二朱金 同

目形八ツニテ壹両

一、一分銀 同

目形二匁三分有、四ツニテ壹両

壹両目形九匁二分アリ

拾両八九十二匁

百両八九百二十匁

千両八九貫二百目 千両箱の目形

旅行しる人ハ二分金と二朱金を好む

一、一朱銀 同

目形 十六ニテ壹両

一、寛永銭 一文

一、寛永二十一波銭 四文 同

一、天保当百 同

此頃ハ金判求メ安キモノ、通上金銀より何
割上ケニ而売買スタリ

一、国通用札 秋田佐竹公

拾貫文 札 正銭ノ三百文

五貫文 同 正銭ノ百五十文

三貫文 同 正銭ノ九十文

貳貫文 同 正銭ノ六十文

壹貫文 同 正銭ノ三十文

是ハ古来より諸上納役所より出したるもの
ニ而、元ハ拾貫文ハ拾貫文なれとも、其節
の時政ニ依而追々と下落したるものと云。

此庚申ニ当りて壹貫文の国札ハ正銭ニ而
三十文にアタルモノ也。

御町所 能代方 ヨリも出ル

正金銀を国札ニ而買入る相場ハ日々高下の
有りたる者なり

*庚申...万延元年の干支。

(原裏表紙)

「

畠山栄太

壹番

」